

『俳句の可能性』 『俳句を味わう』

(中学校3年生:「C 読むこと」)

× *Customize* カスタマイズする

『説得力のある
文章を書こう』
ー批評文を書くー
(中学校3年生:「書くこと」)

ここを
活用する

目標

筆者の見方や感じ方が分かる表現に
注目して読み、それぞれの俳句について自分
の考えをもつことで、作品を味わう

授業の流れ

*各時間・単元最後の

ずに!

第1時

1 俳句の基本を確認後、五つに分けられた二つの俳句に
共通することは何か考える。

- A 「どの子にも涼しく風の吹く日かな」/「萬緑の中や吾子の歯生え初むる
- B 「いくたびも雪の深さを尋ねけり」/「咳をしても一人」
- C 「跳箱の突き手一瞬冬が来る」/「飛び込みのもう真っ白な泡の中」
- D 「たんぽぽのぽぽと絮毛のたちにけり」/「分け入つても分け入つても青い山」
- E 「赤い樁白い樁と落ちにけり」/「桐一葉日当たりながら落ちにけり」

2 学習班で A~E の短歌にどのような共通点があるのか
話し合い、考えをまとめる。

第2時

3

A~E のうち一つを選択し、自分が選んだ
二つの短歌を比較しながら、それぞれの魅
力について考える。

- ・言葉の使い方やそこからイメージされることに
焦点を当てて比較する。

4 学習班で自分がより魅力を感じる方はどちら
か根拠と共に述べる。聞き手は、その考えに賛
同できるか否か根拠をもって判断する。
(句会であればどちらに票を入れるか)

第3時

つながり
Connection

『言葉を選ぼう』
『「批評」の言葉をつめる』

中学校3年生「伝統的な…事項」「読むこと」

〈説得力のある批評文を書くには…〉

- ・取り上げた事柄(ここでは俳句)を
分析するための観点を考える。
- ・よい点や問題点などに整理する。
- ・判断や評価の根拠を明確にし、表現
を工夫する。
- ・意見や根拠をどのような順序で述べる
か考える。

*具体的な特徴から受ける印象
を述べる。
*どんなことを批評するか
*新たな発見や着目する点につ
いて、自分の体験などと照ら
し合わせながら評価する。
*自分の考える意味づけや価値
を述べてまとめる。

Point

〈批評するときの言葉〉

- ・視点 ・価値観 ・テーマ
- ・発想 ・背景 ・効果 ・根拠
- ・意義 ・意味づけ ・変化
- ・転換 ・象徴 ・思考 ・構造
- ・段階 ・イメージ ・共感
- ・固定観念 ・示唆 ・意外性
- ・時代性 ・関連性 ・必要性
- ・問題性 ・インパクト
- ・メッセージ性

+

5WH や五感など、これ
までの詩や短歌の学習
や鑑賞の仕方もある

*俳句の学習の後に配置されている教材です。俳句の学習の後に行うことが通常ですが、学級の状況やねらいに応じて、この二つの教材を先に学習し、俳句の学習に入ることも考えられます。また、3年生の後半では、「批評文を書く」という教材が配置されていますので、俳句の授業を通して批評をするとはどういうことなのか体感した上で、批評文を書くという学習活動に入ることが重要です。3年生は、特に「評価する」ということが重要なキーワードになってくる学年でもあるので、学年のスタートからそういったことも意識をしていくことも必要です。